




 萬寶古狀揃文鑑
頭書繪抄 無點讀本
 完



雲騰致雨	律呂調陽	閏餘成歲	秋収冬藏	寒来暑往	辰宿列張	日月盈昃	宇宙洪荒	天地玄黃	音千字文
------	------	------	------	------	------	------	------	------	------

今川不備對愚是
 仲秋制冠條々
 不知交道而武乃終
 不濟揚利事
 好務智道經三書
 樂教以生事

天龍宮縁記
 天曆九年九月九日北野
 右近の馬場小遷坐すべくて
 神徳比高驗妙感の端的
 形事ありしがとも早倍乃
 申も申くおろろり
 我れのむ人と世終る
 名とやうきさん



此の巻は... (Small text at the bottom of the page, partially obscured and difficult to read)

露結為霜

金生麗水

玉出崑岡

劍號巨闕

珠稱夜光

菓珍李柰

菜重芥薑

海鹹河淡

鱗潛羽翔

龍師火帝

鳥官人皇

始制文字

乃服衣裳

推位讓國

有虞陶唐

吊民伐罪



武帝
子守文
棒

一少事不遂礼昭

一令行死冠率

一大科上事為具實

一沙法收空名率

一貪民令及例神社

一極業為率

一先世山名古塔第

一破懷在私免率

一君父重恩令忘却

一根忠孝率

一怪公愛重私用之

一夫乃勸率

周 護 湯

半 朝 問 道

垂 拱 平 章

愛 育 黎 首

臣 伏 戎 卷

親 通 壹 體

率 賓 歸 王

鳴 鳳 在 樹

白 馭 食 場

化 被 草 木

賴 及 萬 方

蓋 此 身 髮

四 大 五 常

恭 惟 鞠 養

豈 敢 毀 傷

女 慕 貞 潔



一 不 每 以 不 善 為 事

一 貴 爵 為 事

一 我 如 知 後 不 勤 者 又

一 為 國 為 事

一 企 遠 赴 志 說 以 從 人

一 悲 樂 此 事

一 不 知 身 分 誰 或 公 分

一 或 不 是 事

一 失 他 人 理 致 監 望

一 養 禮 禮 威 事

一 德 賢 臣 忠 傷 人 致

一 此 方 沙 法 事

男おとこ效たう女むすめ良よし

知し過と必かならず改あらた

得とく能の莫な忘わす

周しゅう談たん彼か短たん

靡ひ恃し已や長ちやう

信しん使し可か覆ふく

器き欲よく難なん量りやう

墨ぼく悲ひ絲し染せん

詩し讚さん羔かう羊やう

景けい行かう維い賢けん

克こく念ねん作さく聖せい

德とく建けん名な立た

形けい端たん表ひょう正せい

空くう谷こく傳でん聲せい

虛きょ堂どう習しゆ聽てい

禍わざはひ因いん惡あく積せき



非道ひどう百ひゃく不一ふいち其その面めん出しゅつ

幽ゆう白はく不ふ恒こう義ぎ事じ

長ちやう酒しゆ豪かう壯ちやう具ぐ猪しゆ負ふ

玄げん家か藏ざう事じ

迷まい已い利り根こん然ぜん若じやく若じやく

知ち他た人にん事じ

余よ未み則すなはち據よ虛きょ而を然ぜん然ぜん

對たい面めん事じ

好こう獨どく味み不ふ能の飲いん飲いん人にん合がっ

隱いん居こ事じ

空くう家か少せう不ふ能の校こう言げん案あん

可か以い礼れい義ぎ事じ



下知を
受

福縁	尺璧	寸陰	資父	曰嚴	孝當	忠則	臨深	夙興	似蘭
美	非寶	是競	事君	煥敬	竭力	盡命	履薄	溫清	斯馨
慶	寶	競	君	敬	力	命	薄	清	馨

一 於分國之諸國令煩
 一 惟遂旅人奉
 一 或具衣衾已過
 一 臣下見者奉
 一 至賊不辨因果
 一 理安未奉

如松之盛
 川流不息
 淵澄取映
 容止若思
 言辭安定
 篤初誠美
 存謙為家
 尊卑之道
 於國之先
 為國之先
 為國之先
 為國之先
 為國之先
 為國之先

慎終宜令
 榮業所基
 籍甚無竟
 學優登仕
 攝職從政
 存以甘棠
 去而益咏
 樂殊貴賤
 禮別尊卑
 上和和睦
 夫唱婦隨

夫唱婦隨
 外受傳訓
 入奉母儀
 諸姑伯叔
 猶子比兒
 孔懷兄弟
 白木元



本漢方身之愛人後者為友
 實下之於國者後者為賢人
 食之國者好後者為忠
 知者勞之君者為其內
 德者生之君者為其外
 不為明者為德之供也

捨食之生也愛者為德之供也
 那比之生也愛者為德之供也
 有之生也愛者為德之供也
 侍之生也愛者為德之供也
 教之生也愛者為德之供也
 思之生也愛者為德之供也



逐物意移	堅持雅操	好爵自縻	都邑華夏	東西二京	昔邛面浴
------	------	------	------	------	------

守真志滿	心動神疲	生靜情逸	顛沛匪虧	節義廉退	造次弗離	仁慈隱惻	切磨箴規	交友投分	同氣連枝
------	------	------	------	------	------	------	------	------	------

月照華亭
 正偏
 批荆
 法華經

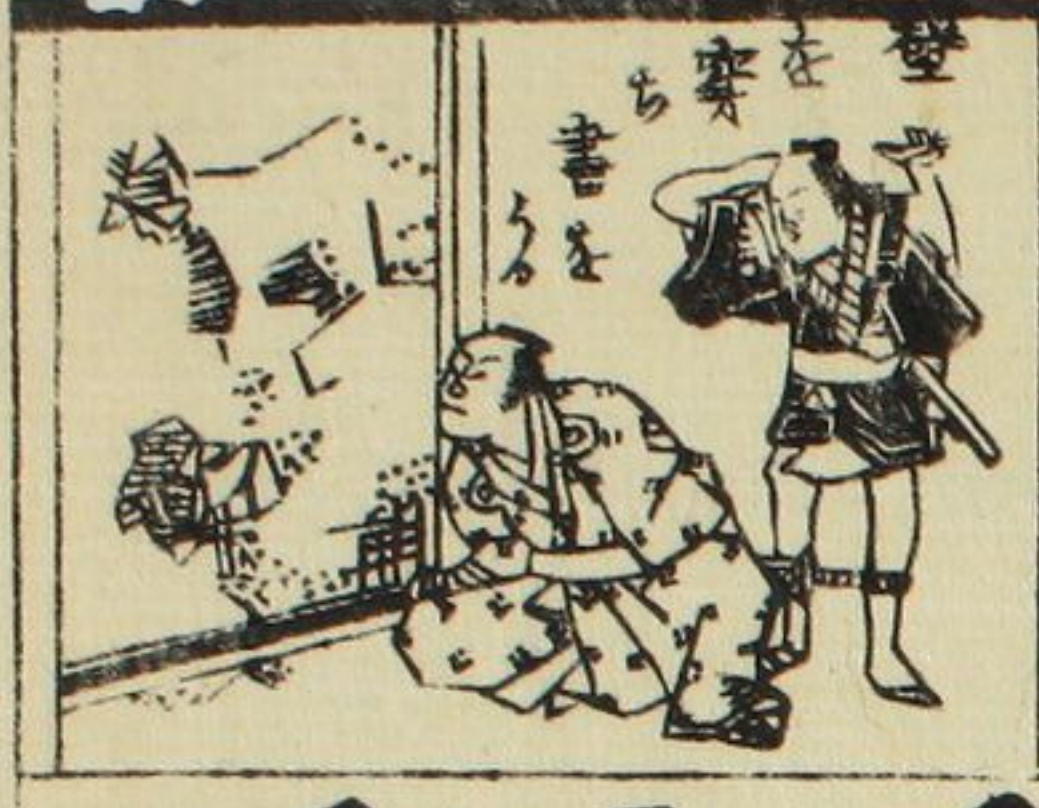
食
 為
 往
 我

策功茂實	車駕肥輕	世祿侈富	驅轂振纓	高冠陪輦	家給千兵	戶封八縣	路俠槐卿	府羅將相	漆書壁經
------	------	------	------	------	------	------	------	------	------

有御不棄我輩
 宜與書中
 揚
 賞
 打
 日

桓公匡合	微且孰管	奄宅曲阜	佐時阿衡	磻溪伊尹	勒碑刻銘
------	------	------	------	------	------

終
 終
 終
 終
 終



百郡秦并
 嶽宗恒岱
 禪主云亭
 鴈門紫塞
 雞田赤城
 昆池碣石
 鉅野洞庭
 曠遠餘韻
 巖岫杳冥
 治本於農

參觀此世
 法苑珠林
 因是故物
 葷茹素菜
 建寺及於
 七賢之德

務茲稼穡
 俶載南畝
 我藝黍稷
 稅熟貢新
 勸賞黜陟

華英之德
 我藝黍稷
 腰越快



源我經心
 法苑珠林
 智度論云



殆辱近恥
 林泉幸即
 兩疏見機
 解組誰逼
 索居問處

孟軻敦素
 史魚秉直
 庶幾中庸
 勞謙謹勅
 聆音察理
 鑒貌辨色
 貽厥嘉猷
 勉其祗植
 省躬譏諷
 寵增枕楹

教習西師外學
 因抱疾終
 世其業固不廢
 參其業作世
 主其業於世
 中其業於世

功業世世
 傳業世世
 先書之國
 不天謀食

古

古

十一

十一

陳	梧	枇	園	渠	熾	欣	散	求	沈
根	桐	把	萃	荷	謝	奏	慮	古	默
委	早	晚	抽	的	觀	景	道	尋	寂
醫	彫	翠	條	歷	招	遣	遙	論	寥

膚托每茲茲國皇尊化
 與名統統托博中作下
 國字新詩詩詩詩詩詩
 李地地地地地地地地地
 於地地地地地地地地地
 竹生所所所所所所所所
 四

蓮花



易	寓	耽	凌	遊	落
輜	目	讀	摩	鷗	葉
攸	囊	玩	絳	獨	飄
畏	箱	市	霄	運	緇

後後後後後後後後後後
 純純純純純純純純純純
 浩浩浩浩浩浩浩浩浩浩
 為為為為為為為為為為
 後後後後後後後後後後
 湯湯湯湯湯湯湯湯湯湯

扇 圓潔 侍巾 帷房 妾御 績紡 老少 異糧 親戚 故舊 飢厭 糟糠 飽飲 烹宰 適口 充腸 具膳 餐飯 屬耳 垣牆

銀燭 輝煌 書眠 夕寐 藍笥 象林 絃歌 酒譙 接杯 攀觴 矯手 頓足



於心應雜於絲杼彼如
於心應雜於絲杼彼如
於心應雜於絲杼彼如
於心應雜於絲杼彼如
於心應雜於絲杼彼如
於心應雜於絲杼彼如
於心應雜於絲杼彼如
於心應雜於絲杼彼如

牛王寶下 霖霖雜聖之心
牛王寶下 霖霖雜聖之心
牛王寶下 霖霖雜聖之心
牛王寶下 霖霖雜聖之心
牛王寶下 霖霖雜聖之心
牛王寶下 霖霖雜聖之心
牛王寶下 霖霖雜聖之心
牛王寶下 霖霖雜聖之心

古犬

十四

驢騾 驢 騾 驢 騾	執熱 執 熱	骸垢 骸 垢	願審 願 審	頭吞 頭 吞	箋牒 箋 牒	簡要 簡 要	悚懼 悚 懼	恐惶 恐 惶	稽顙 稽 顙	再拜 再 拜	祭祀 祭 祀	恭嘗 恭 嘗	嫡嗣 嫡 嗣	後嗣 後 嗣	續續 續 續	悅豫 悅 豫	且康 且 康
------------------------	--------------	--------------	--------------	--------------	--------------	--------------	--------------	--------------	--------------	--------------	--------------	--------------	--------------	--------------	--------------	--------------	--------------

進上 因情交友
 我經會友
 元事至善自深義經
 昨先慈律保法也案案經後云
 以期安寧身不處以依保會者
 業於於於於於於於於於於於於
 芳免種也也也也也也也也也也
 建言安道經後後後後後後後後
 仕民百姓皆皆皆皆皆皆皆皆皆皆

毛施 毛 施	並皆 並 皆	釋紛 釋 紛	利俗 利 俗	鈞巧 鈞 巧	任鈞 任 鈞	怡筆 怡 筆	倫紙 倫 紙	布射 布 射	遼丸 遼 丸	捕獲 捕 獲	叛亡 叛 亡	誅斬 誅 斬	賊盜 賊 盜	駭躍 駭 躍	超驤 超 驤	絺琴 絺 琴	阮嘯 阮 嘯	毛施 毛 施	淑姿 淑 姿
--------------	--------------	--------------	--------------	--------------	--------------	--------------	--------------	--------------	--------------	--------------	--------------	--------------	--------------	--------------	--------------	--------------	--------------	--------------	--------------

進上 因情交友
 我經會友
 元事至善自深義經
 昨先慈律保法也案案經後云
 以期安寧身不處以依保會者
 業於於於於於於於於於於於於
 芳免種也也也也也也也也也也
 建言安道經後後後後後後後後
 仕民百姓皆皆皆皆皆皆皆皆皆皆

紅嬾妍笑

年矢每催

曦暉朗耀

璇璣懸幹

晦魄環照

指薪脩祐

永綏吉劬

矩步引領

俯仰廊廟

束帶矜莊

俳佃瞻眺

孤陋寡聞

愚蒙等誦

謂語助者

焉哉乎也



沙運流轉勳賞三武衛外野

伏以武衛國海之濱國之

維切款待之曠練觀之聰美

靡三子三月北其身生捕食

父子汲東流金隨君源以會

誓聖守信權不從書空畫心

筆若動切於先者且誓管修為

不食毛食肉安以感方母業

固似輕梳束切於多於多而

我經志志志志志志志志志

塔維靈業業業業業業業

文法天子宮宮宮宮宮義經

七夕舞づト

をれがこのんれ

らちやりのるん

そのとーきふの

あふふきの

き

ゆきつ

その門系

を あれき

て

るんれ

うきそー

ついでの せり

あふれ川

うきと あふを

るん

進上 源右兵衛依敷

西條氏長坊各慶

友和云柱と一通

柳春子村寄家若くは新

山自若於以奉不意自夜起

武河身と云況云新海鏡

繁以海向去云直海定福橋

春と櫻枝合字律春律春

南松葉花有本玉法花必花

白松内出花本花花松葉花

春と花松葉花初因世在藤

先春と春松葉花初因世在藤

年成終てすむんれ
あふのいけあふり
星合のうげもあふ
るんやま

茶の葉
あふのいけ
秋のきむけ
あふのいけ

あふのいけ
あふのいけ
あふのいけ
あふのいけ

あふのいけ
あふのいけ
あふのいけ
あふのいけ

古大

古本

希もあて
人あはくみ
あふまこの
らあはくみ
いしひまを

七夕のあ乃
あまのあ
あまのあ
あまのあ

あまのあ
あまのあ
あまのあ
あまのあ

天の川と一の
あまのあ
あまのあ
あまのあ

あまのあ
あまのあ
あまのあ
あまのあ

たれつてふるる衣
乃つもきき
あつあつ
あつあつ

あつあつ
あつあつ
あつあつ
あつあつ



あまのあ
あまのあ
あまのあ
あまのあ

あまのあ
あまのあ
あまのあ
あまのあ

あまのあ
あまのあ
あまのあ
あまのあ

あまのあ
あまのあ
あまのあ
あまのあ

あまのあ
あまのあ
あまのあ
あまのあ

あまのあ
あまのあ
あまのあ
あまのあ

あまのあ
あまのあ
あまのあ
あまのあ

あまのあ
あまのあ
あまのあ
あまのあ

あまのあ
あまのあ
あまのあ
あまのあ

あまのあ
あまのあ
あまのあ
あまのあ

あまのあ
あまのあ
あまのあ
あまのあ

あまのあ
あまのあ
あまのあ
あまのあ

あまの川あふせ不
とまはれまよつこの
うらみぬらりの夜う
依波矢

秋まはるもあまをく
彼のせみまつ後を
七夕ひえす
何をうさばし

神代より 七夕
いまあわせ
あはれり とりのの
そえ 月るるを
せん てめ

あま うさひて
つこの うさひて
あま あり
いく あまら

天の川せしめ

くをゆつまの
秋のころ成

あまの川
星あひの

いくとせま
秋れいと秋を
うさぬら年

歌合



あまの川せしめ
くをゆつまの
あまの川
星あひの
いくとせま
秋れいと秋を
うさぬら年
あまの川
くをゆつまの
あまの川
星あひの
いくとせま
秋れいと秋を
うさぬら年

あまの川せしめ
くをゆつまの
あまの川
星あひの
いくとせま
秋れいと秋を
うさぬら年
あまの川
くをゆつまの
あまの川
星あひの
いくとせま
秋れいと秋を
うさぬら年

秋夜
木まらあしひ
ぞつとれ
あすの月
わあせちう
きまこりるまごめ

秋夜
二つの 秋
たのり
ふり地き
や

七夕の
あはれいと夜と
まごちきりらん
あはれ
くう

隅田川
あはれいと夜と
まごちきりらん
あはれ
くう

隅田川
あはれいと夜と
まごちきりらん
あはれ
くう

第一回日本書紀
第一回日本書紀
第一回日本書紀

第二回日本書紀
第二回日本書紀
第二回日本書紀

第三回日本書紀
第三回日本書紀
第三回日本書紀

第四回日本書紀
第四回日本書紀
第四回日本書紀

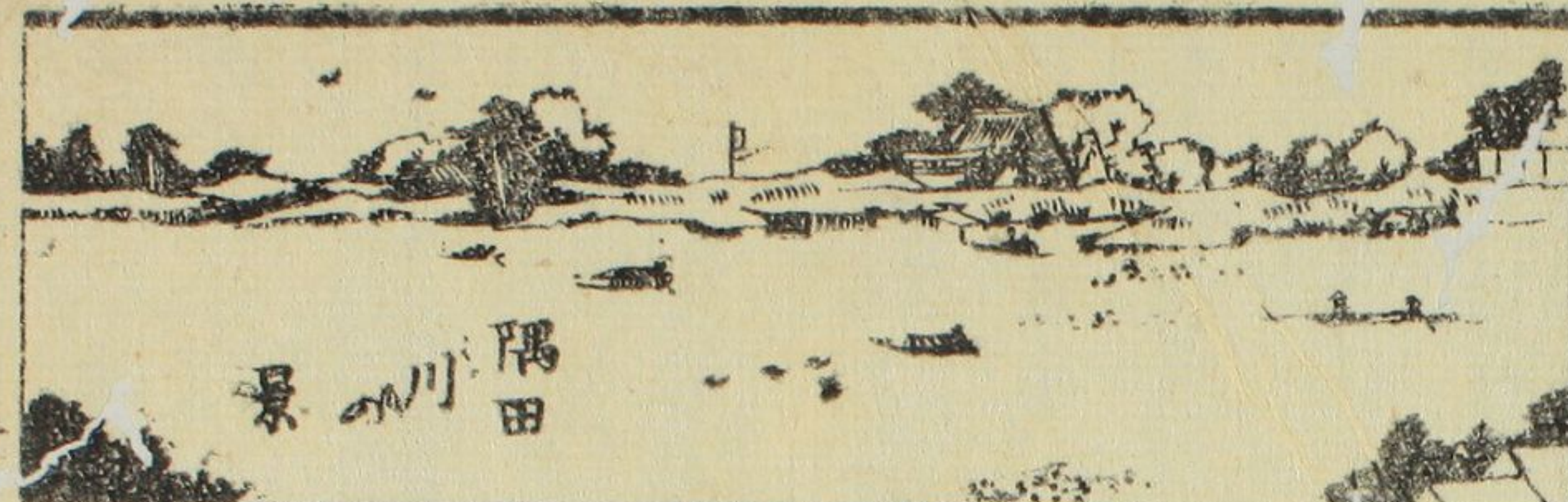
第五回日本書紀
第五回日本書紀
第五回日本書紀

第六回日本書紀
第六回日本書紀
第六回日本書紀

第七回日本書紀
第七回日本書紀
第七回日本書紀

古状

七



Vertical columns of Japanese calligraphy in a cursive style, likely representing the lyrics of a song or a poem. The characters are densely packed and flow down the page.

Small vertical columns of text at the top of the right page, possibly providing commentary or additional lyrics. The text is written in a smaller, more formal hand compared to the main body.

Main vertical columns of calligraphy on the right page, continuing the poetic or lyrical text from the left page. The style is consistent with the left page.

貴人々々々々々
見合大船
あつ入順風
この帆おろけ
勢い極く毛
橋場より
揚り安めく
案内を頼む
おまをてい
事おむみやこ

然も飛洋縁何家何家
運舟知る其別順風
舟は環津舟舟中舟
中伏妻名津安津津若松氏
紙舟の津の字津津津津津
舟は舟舟舟舟舟舟舟

舟の津津津
舟の津津津
舟の津津津
舟の津津津
舟の津津津
舟の津津津
舟の津津津
舟の津津津

今月七日お移舟舟舟
舟舟舟舟舟舟舟舟舟
舟舟舟舟舟舟舟舟舟
舟舟舟舟舟舟舟舟舟
舟舟舟舟舟舟舟舟舟
舟舟舟舟舟舟舟舟舟
舟舟舟舟舟舟舟舟舟
舟舟舟舟舟舟舟舟舟

山根本中巻
 金根本中巻
 ありたるんる
 乳色ハ意ハ
 中ノ輝ハ
 上野



美不...
 地也...
 史...
 川...
 所...
 姓...
 為...
 小...
 本...

田...
 漫...
 回...
 以...
 長...
 生...

思...
 本...
 多...
 香...
 然...
 大...

面白くもどき

牛車に編

守田中の務

あつたをひき

酔いのあま

お郡志

男女よ交

芝生の草

秋の夕

白くもどき

いつく

あをむ

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

今急行相中

重因判物

甚然仲先

徳勝徳

軍集

野切

野切

野切

野切

野切

野切

野切

野切

野切

野切

野切

野切

野切

野切

野切

野切



の川の流るる行
 木の根は切敷
 院の心算まで
 ありしはまの病
 まる海人の舟

巨懸軒の取引申奉りては
 秀教の字を記すに
 日暮の影を
 不有の法を
 可受の光を
 空雲の空を

小舟宿業の疾
 去るは橋同
 真間寺の
 八重のついで
 舟渡寺の
 橋欄を
 かけまはり
 舟の
 安房と流るる
 の流るる

大野の馬友
 同五伏
 芳集の
 長十九年
 大野の馬友
 同五伏
 芳集の
 長十九年

中良の渡も
うらやみゆく
向ふ富士山
麻子もまじり
月夜は清く
望む一宿小
浅乃嶽を
あつと此み
とく免ぬと
長原中おの

新編武蔵野
列代後妻
大園長
我流
國城
萬國書

るやうにや
そへらむ通
おのまじり
望むもまじり
心在らむ
あつと此み
とく免ぬと

神宮
父子
我流
慶長十九年
秀頼

文化十一年三月再刻
天保三壬辰年九月再刻
嘉永四年五月再刻
萬延元年庚申年二月再刻
江戸馬喰町二丁目東側
錦森堂
森屋治兵衛

書物地本問屋

